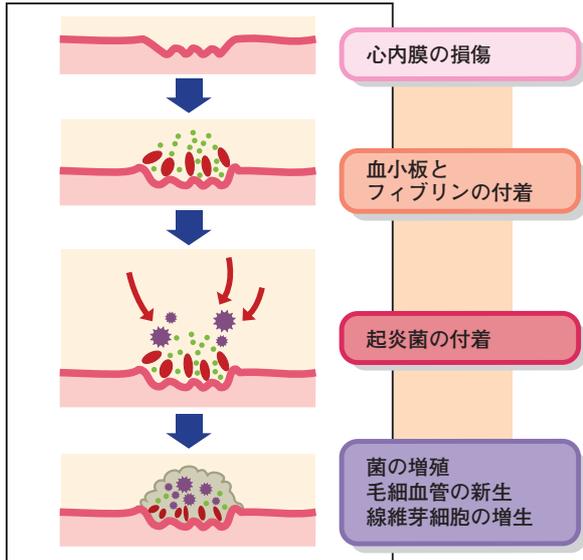


心内膜に疣腫(ゆうしゅ)ができるまで



本来、心内膜はなめらかでつるつるしていますが、心臓病のある人や心臓の手術後などでは、心臓内の異常な血液の流れによって、心内膜に細かい傷ができることがあります。そこに血小板などが付着し、たまたま血液に入り込んだ細菌が附着して増殖すると、いぼ

血液中に細菌が入り込む原因は、抜歯など歯科治療や虫歯から口腔内の常在菌

感染性心内膜炎とは

感染性心内膜炎は、心臓の内側を覆う内膜(心内膜)に細菌の病巣ができて炎症を起こす敗血症のひとつで、早期診断と適切な治療が重要です。

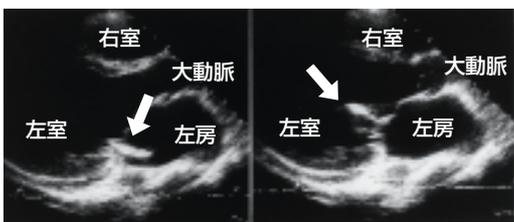
状態の感染巣—疣腫(ゆうしゅ)をつくりまします。心臓弁に疣腫ができると、弁や弁を支える組織が破壊されて急性の心不全などを起こします。また、疣腫のかけらが剥がれて脳の血管に運ば

が侵入する場合や、泌尿器科や産婦人科の手術の際に侵入する場合などが考えられます。通常は細菌が血液内に侵入しても、白血球が働いて退治してくれますが、一時的に心臓に入り込んだ菌が、心内膜に傷があるとそこに付着し増殖して心内膜炎が発症するので

症状は
発熱
筋肉痛
関節痛など

治りにくい風邪に類似

このように感染性心内膜炎は、心臓病を持つている人に起こりやすい病気です。主な症状は発熱で、長く続くのが特徴です。ほかに関節痛や筋肉痛、末梢血管がつまることから指先などに痛みをとまらぬ赤い斑点がみられることもあります。この疾患には特別な自覚症状がないため、風邪や膠原病との鑑別が重要です。



●僧帽弁に付着する疣腫(ゆうしゅ)の心エコー図(左:収縮期、右:拡張期)



●僧帽弁に付着する疣腫(ゆうしゅ)の切除標本

診断には、聴診や心エコー検査、血液培養による細菌の有無と種類を特定する検査が行われます。

治療は、特定された病原菌に効果のある抗生物質を長期間投与しますが、心不全など重篤な合併症がある場合は緊急手術も行われます。

感染性心内膜炎の予防

感染性心内膜炎を起す手術を受けた人、心臓病のある人、ペースメーカーやICDをつけている人は、次のことに注意しましょう。



- ◆ 歯科治療のとき、菌が入りやすいので、歯科医に伝えて、適切な処置をしてもらいましょう。
- ◆ 虫歯は放置せずに治療しましょう。
- ◆ 正しい歯磨きで口腔内を清潔に保ちましょう。
- ◆ 外科的な処置を受けるときは、処置医に伝えて、抗生物質などで適切な予防をしてもらいましょう。
- ◆ 原因不明の熱が長く続く場合は、安易に抗生物質を飲まずに循環器科の主治医に相談しましょう。

心疾患のある人は 歯科治療に 十分注意



また、僧帽弁脱症のひとつである逸脱症も重要です。無症状のため僧帽弁逸脱症に気づかず、抜歯後に感染性心内膜炎を起こした例もあります。長期間持続する不明熱(原因不明)では、この疾患を疑っておく必要があります。

心臓病のある人や心臓の手術をした人は、発熱が続いたら感染性心内膜炎を疑い、専門医を受診しましょう。とくに虫歯などの治療をした後は注意が必要です。心内膜炎を放置していると、弁脱症や心不全、脳卒中など重篤な疾患の原因になりますので、早期発見早期治療が大切です。

日本心臓財団より

日本心臓財団は、わが国三大死因のうちの心臓病と脳卒中の制圧を目指して、一九七〇年に発足いたしました。

当財団は、研究に対する助成や予防啓発、また世界心臓連合加盟団体としての諸活動を通して、心臓血管病の予防・制圧に努めております。当財団は皆様のご寄付により運営されています。どうぞ皆様のご協力をお願い申し上げます。

財団法人日本心臓財団
〒100-0005 東京都千代田区丸の内三、四一 新国際ビル
☎03(3111)0180
ホームページ・アドレス <http://www.jhf.or.jp/>